

宮本武蔵と稽古しているかも

三重県

三重旺武道場

中学3年 濱崎理子

八月末、非常事態宣言がでて、また稽古ができなくなりました。学校はオンライン授業になり、もちろん部活もできません。県内のほとんどの体育館は休館となり、道場もお休みになりました。コロナでトレーニング、一人稽古をする日々がこれまで何度あっただろう、どんなに毎日トレーニングをしても、「稽古をした」という充実感がなく、「やっぱり稽古となんか違うな、稽古がしたいな」とばかり思っていました。

どうしてトレーニングでは充実感が持てないんだろう、稽古と何が違うんだろう、他の言葉とも比べてみることにしました。トレーニングとは体に負荷をかけて鍛えることだそうです。これは「鍛錬」という言葉に似ています。また、「練習」は同じことをくり返し習うこととありました。基本稽古はこれに近いかもしれません。剣道だけでなく、柔道や茶道も「稽古」といいます。日本の習い事で「道」がつくものは、練習を稽古と言うのかなあと考えました。調べてみると稽古の「稽」という字は考えるという意味でした。稽古の「古い」という字はいにしえ、過去の意味です。古事記にも「稽古照今」という言葉があり、これは「古(いにしえ)から学び、今に照らし現在の指針を見出す」という意味です。稽古とは練習や鍛錬のように体を動かすことだけではなく、今を照らすために過去を考えることなのです。今、対人稽古はできません。だからこそ今、何をするか、何を考えるかで未来の私の「今」が決まるのだと思いました。

「一人稽古」という言葉がコロナ禍で広まりました。稽古という言葉には、もう一つ意味があります。稽古とは、師匠を通じて先人が培ってきたものを学ぶ事なのだそうです。師匠の体の中には、これまでの過去と今があり、稽古をすることで師匠の人生の一部を授かるのだそうです。じゃあ私が先生と稽古すると先生の中にいる先生の先生やそのまた上の先生とも稽古していることになるんだと思いました。もしかして、ずっと昔までさかのぼったら「兵法者」の宮本武蔵の教えも先生の中にあるかもしれない、何百年も過去の人が私の先生の中に宿っているかもしれないと、ワクワクして嬉しくなって、早く稽古がしたいという気持ちが強くなりました。

私は、昔は受け継ぐこと、継承していくためのツール(方法)が稽古だったのではないかと考えました。現代はマニュアル本やネットで何でも調べることができます。昔は稽古を通して古を受け継ぎ、より良くしてきたのではないかと思います。これは私の好きな言葉で「恩送り」に似ていると思いました。恩送りとは、恩をいただいた方に返す「恩返し」ではなく、いただいた恩を違う人に渡すリレーです。私が道場の先生に稽古のお礼を言いに行った時、先生から「あなたがしてもらってきたことを下の子にしてあげたらいいんですよ。」と言われたことがあります。先生は稽古の本当の意味を教えてくれたんだと思いました。私も将来自分が積み重ねてきたこと、いただいたたくさんの恩を渡していけるような人になりたいです。誰かの中にも、「私」が宿り、伝わっていけるように、コロナに負けずこれからもがんばります。